

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 17 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25282002

研究課題名(和文) 視覚文化におけるデザイン資源の総合的分析：デザイン学研究方法論の構築をめざして

研究課題名(英文) Comprehensive analysis of the design resources in the visual culture: Targeting the construction of a design-study methodology

研究代表者

井口 壽乃 (IGUCHI, Toshino)

埼玉大学・人文社会科学部研究科(系)・教授

研究者番号：00305814

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,600,000円

研究成果の概要(和文)：視覚文化におけるデザイン資源に関する本研究では、国内外のデザイン・アーカイブの調査を行った。視覚デザインの生産物、すなわち写真・映像、活字、タイポグラフィ、ピクトグラム、アイコンタイプ、アイコン、ディスプレイなどは、デザインの潮流を生み出すデザイン思想やICOGRADAなどの国際組織と深い関わりがある。デザイン創造行為と生産物は、国際デザイン組織ICOGRADAを通じた人的交流によって世界規模で拡大・発展した。さらに新たなデザイン思想を構築し、継承と還流を繰り返していることが解明された。

研究成果の概要(英文)：In this study on design resources in the visual culture we have conducted research of the design archives in Japan as well as out of the country. Visual design productions, that is photographic images and moving images, types and typographies, pictograms, isotypes, icons, and display have deep relationship with design ideas and the international organization such as ICOGRADA. The creative activities of design and its productions have been developed worldwide via the exchanges through the ICOGRADA. Furthermore, it has been pointed out that new design ideas have been constructed with succession and revival.

研究分野：デザイン学

キーワード：視覚文化 デザイン資源 デザイン学 情報デザイン メディア デザインアーカイブ デザインミュージアム 知的財産権

### 1. 研究開始当初の背景

「視覚文化」は社会集団、制度、習慣、制度が生産もしくは再生産されるための手段であり、デザイン活動と深く関わっているが故に、「視覚文化」の視点から総合的にデザインを捉える研究の方法論が求められるのである。そのためには、デザインを知的資源と捉え、「デザイン資源」が「視覚文化」に果たす役割を社会の文化構造の深層に照らしあわせ、資源的価値を分析し、デザインの意味を総合的に考察する新たなデザイン学研究の方法論を構築する必要があると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、写真・映像、活字、タイポグラフィ、ピクトグラム、アイソタイプ、アイコン、ディスプレイなどの視覚情報デザインの作品・生産物と技術、デザイン思想によって構成される知の財産を「デザイン資源」と捉え、それらが視覚文化をいかに構成しているのかを多面的に分析することにある。

### 3. 研究の方法

①デザイン資源の発掘を目的にデザイン・ミュージアムとアーカイヴ、および関連する生産現場、公共空間の調査を実施する。

②デザイン資源を a.内容、b.目的、c.表現、d.形式、e.技術、f.歴史、g.地域性の側面から多面的に分析しつつ、資源的価値を明らかにする。

③国際シンポジウムの開催を行い、国内外の研究者と意見交換しつつ現状を比較・検討する。

④20世紀のグラフィック文化におけるイメージの継承を軸とした展覧会の開催、国内外の学会発表、論文集の刊行によって研究成果を一般に公開する。

### 4. 研究成果

日本を代表するデザイン史学研究者、ならびに視覚文化研究者が一堂に会し、国内外のデザイン関係者を交えて、4年間の共同研究が実施されたことが、最大の成果である。

研究目的に述べたように「デザイン資源」という概念を多角的にとらえ、視覚文化との関わりを検討した研究は従来になく、国際シンポジウムに参加した国内外の研究者にも大いなる刺激を与えた。

国内外のデザイン・アーカイヴ調査の過程で、施設による相違（大学、企業、デザインエージェンシー）と課題が浮き彫りにされ、その結果、日本におけるデザイン・アーカイヴの将来の在り方の検討材料となった点は、大きな収穫である。さらに、アーカイヴに保存されているデザイナーの書簡やメモ、下描きやアイデア・ソースに関わる資料の新発見から、創造活動の背後にあるデザイナー間の人的交流と影響関係、イメージや思想の伝播、

国際関係など、デザイン学研究に関わる資源の評価ができた。

研究の前半には、分担者の児玉幸子がデジタル時代特有の問題として近年浮上しているデザインの著作権問題について、法律家と共同研究をすすめ議論を深化させた。

さらに、英国ブライトン大学 ICOGRADA アーカイヴ、武蔵野美術大学図書館、DNP 文化財団デザイン・アーカイヴに現地調査を実施し、各機関より専門家を招聘し、シンポジウム「デザイン資源の現状と未来」（東京国立近代美術館講堂、2015年11月22日）を開催した。パネラーの発表に加えて、研究代表者と分担者のそれぞれの研究論文を日本デザイン学会誌『デザイン学研究 特集/視覚文化におけるデザイン資源』（22巻2号、2015）として編集・刊行した。

研究の後半には、戦後日本のピクトグラム制作の第一人者太田幸夫氏、道吉剛氏を招いてワークショップ「日本の公共ピクトグラムの展開をめぐって」（2016年1月11日、埼玉大学東京ステーションカレッジ）を開催し、戦後日本のデザイン界が国際化する過程におけるデザイン創造活動の形成と発展について検討した。加えて研究代表者は、筑波大学名誉教授で美術・デザイン・万博・ビデオ・建築・美術館等、広範に視覚文化形成に関わる仕事に携わった山口勝弘の評論を収集し、メディアに現れる批評から、戦後日本の視覚文化の流れを検討した。（『山口勝弘評論集』水声社、2017）

研究分担者の山本政幸と佐賀一郎は、多摩美術大学所蔵の株式会社竹尾ポスター・コレクションの約3,200点のデータベース作成を手がけた。

竹尾ポスター・コレクションおよび研究代表者と分担者が収集した資料から、20世紀のグラフィズムにみるイメージと文字に関してデザイン思想、技術、メディアの観点から分析した。その結果、モダニズム前期の1930年代に確立されたデザイン思想と手法は、モダニズム後期1960～70年代に継承され、技術の発達にともなう自由な画像生成へと発展したことが解明された。モダンデザインの科学的な思想に基づく幾何学的構成表現は、1950年代のドイツやスイスのアーティストにその特徴がみられ、1970年代以降の3D技術（ホログラフィ）やデジタル技術の発展による視覚情報の変革が、ポスターのみならず書物の装幀、雑誌のエディトリアルにも影響を与えていることが判明した。

研究の成果公表として、「イメージの継承と還流：デザイン資源の可能性」展（多摩美術大学八王子キャンパス、アートテーク、2016年10月4日～10月17日）を開催し、学生や一般に公開した。展覧会開催中、オランダのデザイン史研究者ヴィボ・バックカー氏を招聘し、国際シンポジウム（10月13日）を開催した。

以上の研究によって、20世紀のグラフィック

クデザインに使われてきた様々なイメージは、国際組織 ICOGRADA に象徴される世界規模の交流を通じて、新たなデザイン思想を構築し、継承と還流を繰り返しながら「デザイン資源」をかたちづくっていると結論づけた。人文学としてのデザイン学研究は、従来のデザイン領域ごとのデザイン史研究から、より体系的な研究方法を見出しつつある。

4年間の研究のまとめとして、論文集『視覚文化におけるデザイン資源の総合的分析-デザイン学研究方法論の構築をめざして』を刊行し、国内の各機関およびデザイン研究者へ配布した。本論文集は一般書籍として出版（『20世紀の視覚文化におけるデザインとデザイン・リソース』水声社、2017）が計画されている。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

① Toshino Iguchi, “A jövő jelen időben Moholy-Nagy László - kiállítás New Yorkban,” *Új Művészet*, Budapest, 2016, no.8, 8-11（査読有）

② 暮沢剛巳 「「飛ぶための機械」と「空の英雄」への賛歌：ル・コルビュジエと飛行機」『kotoba 多元性を考える言論誌』第 21 号、2016 年 6 月、58-61（査読有）

③ 暮沢剛巳 「草間彌生作品解題」『ユリイカ』2017 年 3 月号、187-201（査読有）

④ 井口壽乃 「デザインの創造と継承-亀倉雄策にみる発想のためのイメージ・ソース」『論文集 視覚文化におけるデザイン資源の総合的分析』、2016、5-15（査読無）

⑤ 伊原久裕 「アイソタイプの系譜と国際ピクトグラム標準化の動向」『論文集 視覚文化におけるデザイン資源の総合的分析』、2016、17-27（査読無）

⑥ 山本政幸 「活字書体デザインの再生と創造-第 2 次世界大戦におけるグロテスク活字のリバイバル」『論文集 視覚文化におけるデザイン資源の総合的分析』、2016、29-37（査読無）

⑦ 児玉幸子 「ホログラフィーを用いた初期の芸術作品について」『論文集 視覚文化におけるデザイン資源の総合的分析』、2016、39-45（査読無）

⑧ 暮沢剛巳 「デザイン資源としての竹尾ポスターコレクション」『論文集 視覚文化におけるデザイン資源の総合的分析』、2016、47-57（査読無）

⑨ Sachiko Kodama, Toshino Iguchi, “Ferrofluid Sculpture as Biological Aesthetics,” *the Proceedings of the 6<sup>th</sup> International Congress of International Association of Societies of Design Research*, “Interplay,” 2015, 1099-1114（査読有）

⑩ 伊原久裕 「タイポグラフィから情報デザインへ：レンバーグ＝ホルムとストナーの仕事」『デザイン学研究』23 巻 2 号、2016、8-13（査読無）

⑪ 山本政幸 「1960 年代後半のアメリカ西海岸におけるサイケデリック・ポスターの展開」『デザイン学研究』23 巻 2 号、2016、24-31（査読無）

⑫ 井口壽乃 「東洋人の偉大なる思想：亀倉雄策＝ヘルベルト・バイヤー往復書簡」『デザイン学研究』22 巻 2 号、2015、30-33（査読無）

⑬ 伊原久裕 「デザイン資源としてのピクトグラム：標準ピクトグラム開発の国際的動向」『デザイン学研究』22 巻 2 号、2015、24-29（査読無）

⑭ 菅靖子 「デザイン資源が語ること：デザイン・アーカイヴという歴史の形」『デザイン学研究』22 巻 2 号、2015、34-37（査読無）

⑮ 暮沢剛巳 「デザイン資源としての建築展：ヴェネチアビエンナーレ建築展 2014 を見る」『デザイン学研究』22 巻 2 号、2015、38-45（査読無）

⑯ 児玉幸子、向多美子 「テクノロジーを用いる表現の著作性：Web を漂流する磁性流体の映像とデザイン資源」『デザイン学研究』22 巻 2 号、2015、46-51（査読無）

⑰ 伊原久裕 「1960 年代の日本のグラフィックデザインにおけるアイソタイプの受容」『デザイン理論』64 巻、2014、9-22（査読有）

⑱ 伊原久裕 「日本のグラフィックデザインにおけるアイソタイプの受容：1960-71」『デザイン理論』63 巻、2013、106-107（査読有）

⑲ 児玉幸子 「ディバイスアートと遊び」『日本バーチャルリアリティ学会誌』特集号、19 巻、1 号、2014、20-23（査読有）

⑳ Toshino Iguchi, “Reconsideration of the World Design Conference 1960 in Tokyo and the World Industrial Design Conference 1973 in Kyoto,” *the Proceedings of the 5<sup>th</sup> International Congress of International Association of Societies of Design Research*, 2013, C-108A-5, 1-10（査読有）

〔学会発表〕(計7件)

① Sachiko Kodama, Toshino Iguchi, “Ferrofluid Sculpture as Biological Aesthetics,” the 6<sup>th</sup> International Congress of International Association of Societies of Design Research, Brisbane Australia, 5 November 2015 (査読有)

② Takemi Kuresawa, “The System of Contemporary Art Over the Past 20 Years in Japan,” *Socially Engaged Art in Japan*, Washington USA, 12 November 2015 (査読無)

③ 井口壽乃「視覚的イマジネーションの世界：近代科学からモダンアートへ」埼玉県立近代美術館スペシャルトーク(招待講演)、埼玉県立近代美術館(埼玉県、さいたま市)、2015年7月25日

④ 井口壽乃『『Harper's Bazaar』『ELLE』『an an』にみる視覚文化の流れ-デザイン資源としてのファッション雑誌の分析』日本デザイン学会春季大会、千葉大学西千葉キャンパス(千葉県、千葉市)、2015年6月12日(査読有)

⑤ 鹿島千尋、児玉幸子「「ディスプレイコースター」おもてなしの心を伝えるインタラクティブなコースターの研究」Design シンポジウム、東京大学(東京都、文京区)、2014年11月11日

⑥ Toshino Iguchi, “Japanese Techno-culture of National Design Projects in relation to video art in the 1970s,” Inter-Asia Cultural Society Conference, National University of Singapore, Singapore, 4 July 2013

⑦ Toshino Iguchi, “Reconsideration of the World Design Conference 1960 in Tokyo and the World Industrial Design Conference 1973 in Kyoto,” the 5<sup>th</sup> International Congress of International Association of Societies of Design Research, Sibaura Institute of Technology, Tokyo Kouto-ku, 27 August 2013

〔図書〕(計11件)

① 井口壽乃・田中正之・村田博哉『西洋美術の歴史 8 20世紀』中央公論新社、2017、592(433-544)

② Yasuko Suga, “Corrections Fairs and Japanese Furniture Made in Prison,” *Fredie Flore and Cammie McAtee eds. The Ploitics of Furniture, Identity, Diplomacy and Persuasion in Postwar Interirs*, Routledge, 2017, 214(119-132).

③ 山本政幸監修、ポール・ランド著、手島由美子訳『ポール・ランド：デザイナーの芸術』ビー・エヌ・エヌ新社、2017、248

④ 井口壽乃「帝都ブダペシュトの世紀末-1896年ハンガリー建国千年記念博覧会にみるナショナル・アイデンティティ」『西洋近代の都市と芸術4 ウィーン』竹林舎、2016、541(426-444)

⑤ 暮沢剛巳『エクソダス-アートとデザインをめぐる批評』水声社、2016、331

⑥ 暮沢剛巳『世界のデザインミュージアム』2014、222

⑦ Sachiko Kodama, Toshiki Sato, Hideki Koike, *Smart Ball and a New Dynamic Form of Entertainment*, Springer, 2014, 141-160

⑧ 北澤憲昭、佐藤道信、森仁史、鈴木廣之、滝沢恭司、喜多孝臣、足立元、金恵信、後小路雅弘、河田明久、佐河内雄二、平瀬礼太、光田由里、暮沢剛巳『美術の日本近現代史-制度・言説・造型』東京美術、2014、956(734-836)

⑨ Yasuko Suga, *Reimann School - a design diaspora*, *Artmosky Arts*, London, 2013, 96

⑩ 山本政幸「解説 19世紀末イギリス芸術雑誌『ザ・ポスター』」『復刻 The Poster』アティーナ・プレス、2013、14-26

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井口 壽乃 (IGUCHI, Toshino)  
埼玉大学・人文社会科学研究所・教授  
研究者番号：00305814

(2)研究分担者

児玉 幸子 (KODAMA, Sachiko)  
電気通信大学・情報理工学(系)研究科・  
准教授  
研究者番号：10323883

伊原 久裕 (IHARA, Hisayasu)  
九州大学・芸術工学研究科 (研究院)・  
教授  
研究者番号：20193633

井田 (菅) 靖子 (IDA (SUGA), Yasuko)  
津田塾大学・学芸学部・准教授  
研究者番号：20312910

山本 政幸 (YAMAMOTO, Masayuki)  
岐阜大学・教育学部・准教授  
研究者番号：80304145

暮沢 剛巳 (KURESAWA, Takemi)  
東京工科大学・デザイン学部・教授  
研究者番号：80591007

佐賀 一郎 (SAGA, Ichiro)  
多摩美術大学・美術学部・講師  
研究者番号：30740708